

CAPプログラムを知りたい方へ3（子どもワークショップについて）

発達理論をベースに1クラス単位で実施する

# “CAP子どもワークショップ”

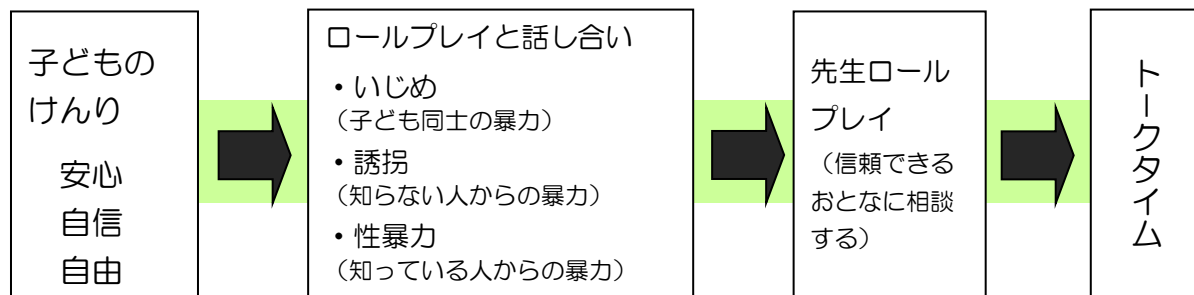
CAPプログラムの子どもワークショップは発達理論をベースに作成されており、3歳～18歳くらいまでの子どもたちのプログラムが準備されています。発達段階に応じて、提供の時間、手法等が変わります。また、子どもにとって普段あまり聞いたり話したりすることのない“暴力”という話題について、恐れを抱かずに、楽しみながら参加できるように様々な工夫が施されており、実施は日常生活の長い時間を共にするクラス単位で行います。

子どもワークショップは、子どもへの暴力について怖がらせる事なく、具体的に役割劇（ロールプレイ）や話し合いをしながら、一緒に考えていきます。子どもの特別に大切な3つの権利「安心・自信・自由」を奪われるロールプレイを見た後、ディスカッションを行い、最後は子どもたちの意見を取り入れて、3つの権利を守ることができるロールプレイで必ず終わります。子どもたちは友だちを助ける役でロールプレイに参加します。ロールプレイは非常にシンプルで、だからこそ子どもが自分の身に引き寄せて主体的に考えられるものになっています。予防教育で大切なことは安心して参加できることとやってみたい！と思えることです。それが学びを促進します。

\*子どもワークショップ実施の事前に、教職員ワークショップ、保護者ワークショップの2つを実施し、子どものセイフティ・ネットを整えます。別紙「CAPプログラムを知りたい方々へ2」をご覧ください。

## CAP小学生プログラムの内容（対象：主に3年生～）

[約60分～70分+トークタイム約30分](クラス単位で実施)

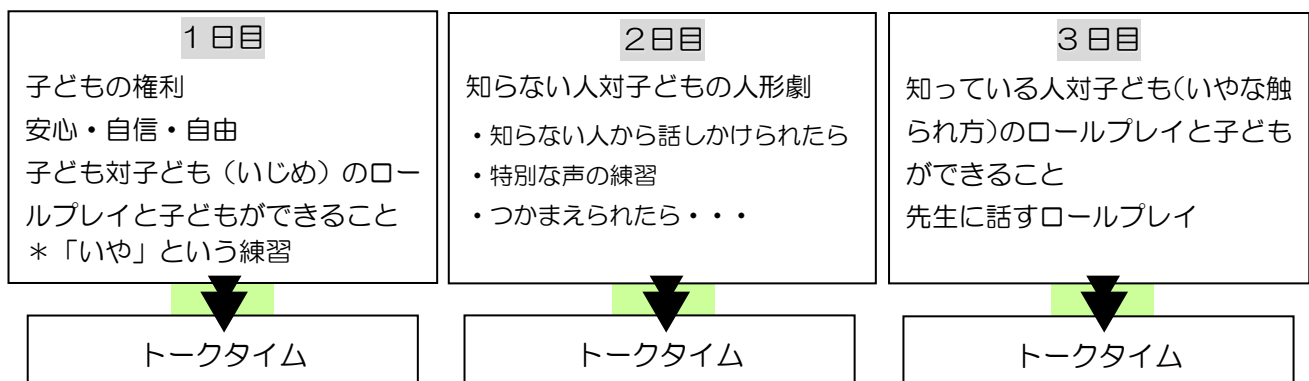


\*どの年齢でもワークショップ後「トークタイム」（約20～30分）をとります。トークタイムは希望する子どもがCAPスタッフと個別に復習や練習をしたり、自分の感じていることを話す大切な時間です。

「トークタイム」では、子どもが自分や友だちの危機に対応できるように、何ができるかを一緒に考え、子どもが本来持っている力を引き出す支援をしていきます。

## CAP就学前プログラムの内容（対象：3歳～小学1・2年生）

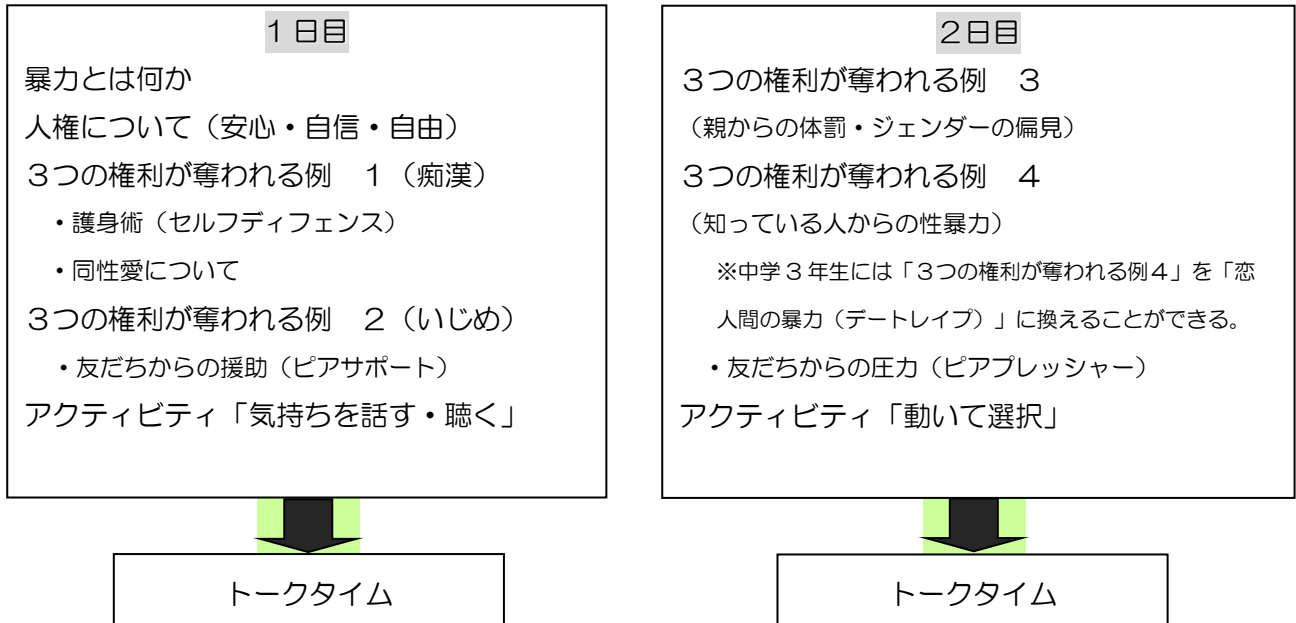
[約20分+トークタイム]×3日間(15人前後で実施)



# CAPプログラムを知りたい方へ3（子どもワークショップについて）

## 中学生暴力防止プログラムの内容

〔約 100 分+トークタイム〕×2日間(クラス単位で実施)



## スペシャルニーズプログラムの内容

知的障がいのある子どものためのプログラムです。（軽度～中程度）

その他、障がいのある子どものニーズに応じて、プログラム提供の手法・関わり方を工夫する取り組みも行っています。

先生による予習日	CAP1日目	CAP2日目	CAP3日目	先生による復習日
安心・自信・自由 の言葉とイメージ	子どものけんり 安心・自信・自由  いじめ（子どもどうし）のロールプレイと子どもができること <キーワード> いや、友だち、話す	誘拐（知らない人）の ロールプレイと子どもができること <キーワード> 知らない人、うそ、ける、 ふむ、にげる、特別な叫び声	性暴力（知っている人からの暴力）のロールプレイと子どもができること <キーワード> 自分のからだは自分のもの 安心な触り方・いやな触り方 安心な秘密・怖い秘密  信頼できるおとなに話す	3日間で覚えたことを思い出し、復習する

注意：CAPプログラムのすべての権限はICAP(International Center For Assault Prevention)が持っています。養成講座を受けたCAPスペシャリスト以外の人が実施したり、まねたりすることはできません。